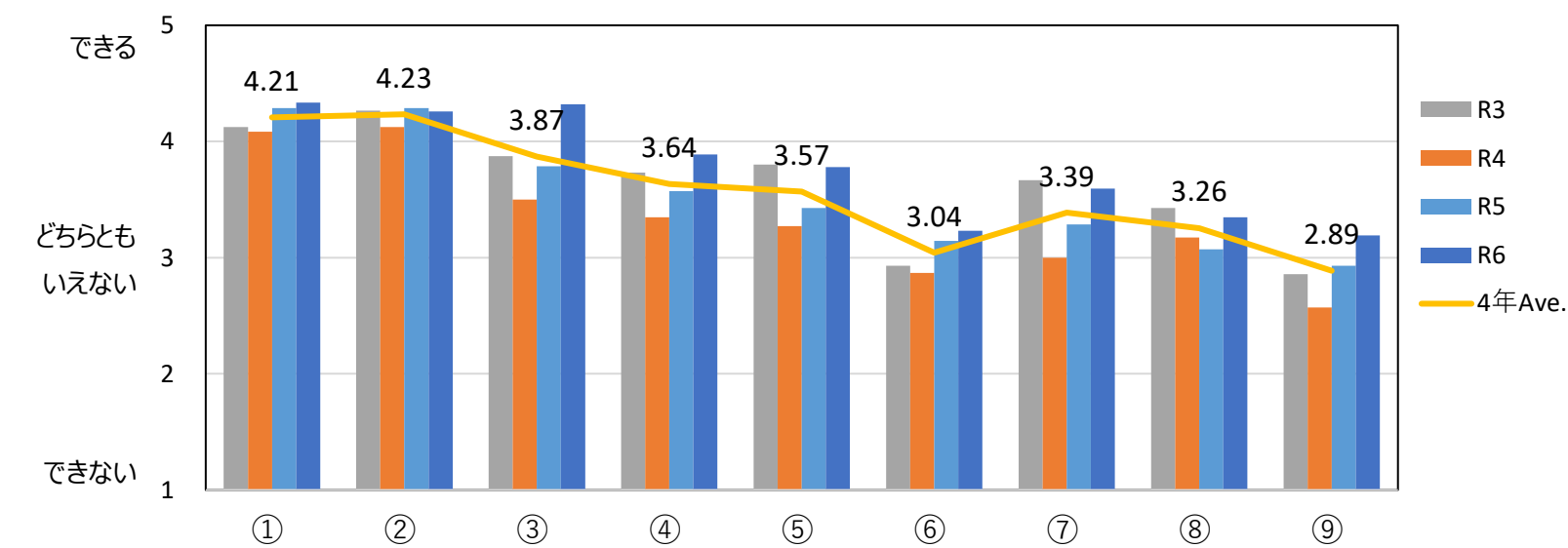


看護学部 経年比較（調査期間：2021～2024）

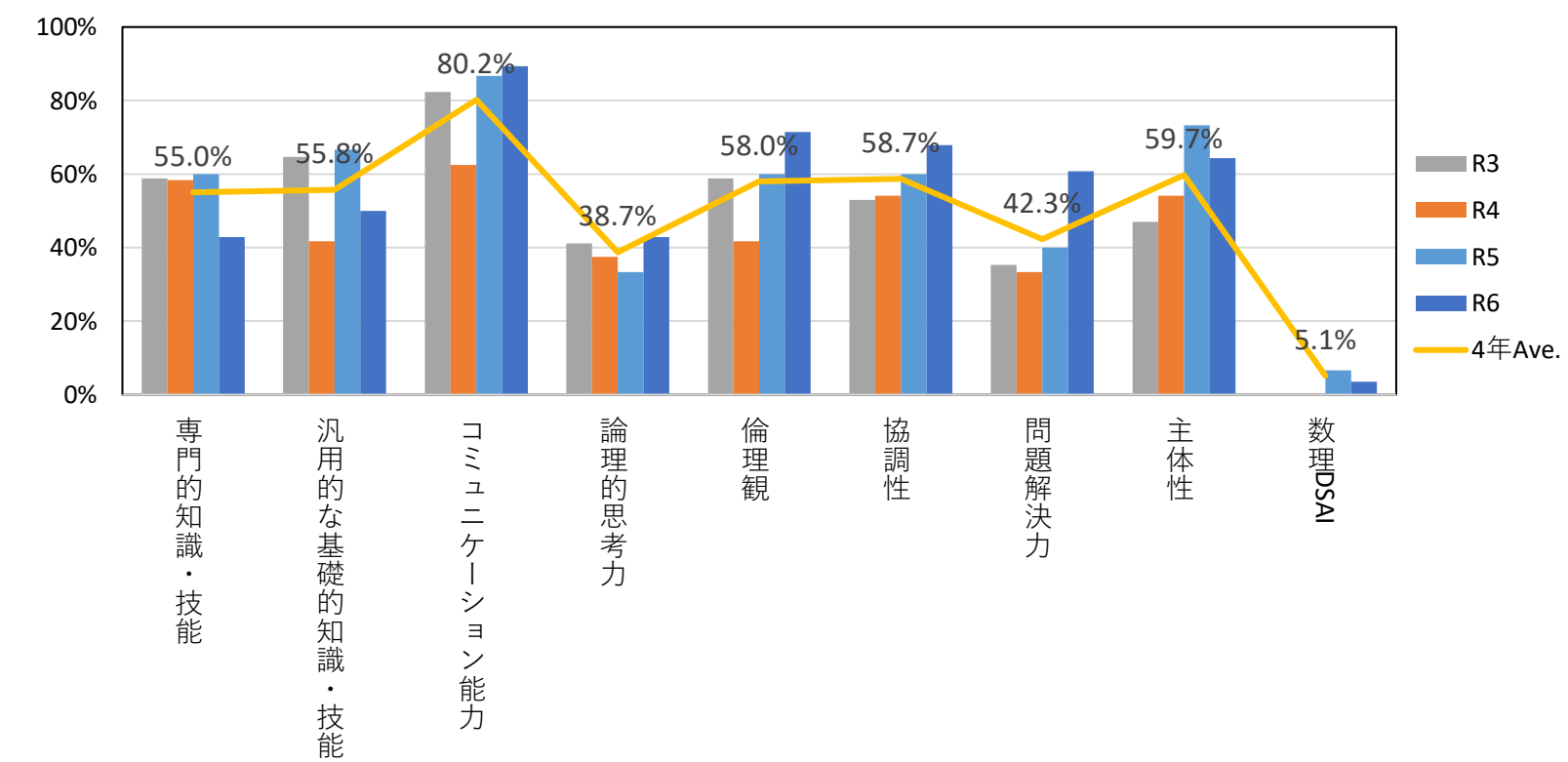
ディプロマ・ポリシー達成度に対する評価



1. 医療人としての全人的人間性を持ち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2. 生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3. 看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4. 看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5. 患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
6. 災害等の危機的状況においてもできるかぎり平常時と同様のケアを提供できるような構想力を身につける。
7. 保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8. コミュニティーにおいて、医療福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。
9. 変動する国際社会にあって、看護職者の役割を国際的な視野で認識できる。

- ①医療人としての全人的人間性、②苦痛や苦悩への共感は特に評価が高い。
- ⑥危機的状況への対応、⑨多職種連携などの評価が低いのは、評価時点での判断が難しいことによると思われる。
- 令和5年度卒業生の評価は、全ての項目で上昇傾向にある。

本学の教育に求める内容



- 「コミュニケーション能力」に対する要望が最も高く、他学部と同様の傾向である。
- 倫理観、協調性、主体性の項目に対する要望は、年々上昇傾向にある。